



# 学校だより

## 11月号

令和8年 10月23日  
横浜市長三ツ沢小学校

### 運動会の価値を考える

校長 益子 照正

今秋の関東地方は、秋雨前線の長期停滞や台風の影響でこの時期の降水量が平年比2倍超、統計が開始された1946年以降で最多を記録し、週末もたびたび降雨に見舞われました。

そんな中、この日は格別な秋晴れ。願ってもない運動会日和で、三ツ沢っ子が大活躍する一日になりました。私にとっては三ツ沢小学校で初めての運動会でしたので、ここでは私が感じたその価値についてふれたいと思います。



写真は応援合戦の様子

この運動会の名称は「三ツ沢っ子かがやき運動会」。50日間にわたって三ツ沢っ子が当事者意識をもち、主役となって創り上げることで、全員が輝く運動会である点が最大の特徴です。

運動会が遠くに見え始める9月初旬、各学年が当日の演技や競技に向かってスタートを切ると同時に、並行して運動会の運営や大道具、小道具の制作に全児童がかかわる活動も始まりました。1年生は校内に掲示するカウントダウン表示、2年生は運動会への思いを込めたフラッグアート(かつての万国旗)、3年生はカラフルで堂々とした入退場門、4年生はプール横にスローガンを強く主張した横断幕を制作しました。5・6年生は一人一役の「支える活動」で運動会を直接運営します。実行委員、応援団、マスコット、全校ダンスなど、前年までの経験からアイデアを出し、「今年の運動会をこんなふうを実現したい」という思いを具現化していきます。

そんな背景を整えて迎えた運動会で、それぞれが自分の全力を尽くして躍動しました。競技の勝敗で涙を流し、演技の達成感でよい表情をみせてくれるのも、この50日間の取組に全力を投じて取り組んできたからこそでしょう。

コロナ禍の経験や気候変動による気温の上昇により、かつてのような午後まで開催する形態をとることが非現実的となっています。さらに「働き方改革」という名の逆風によって運動会が質的にも量的にも縮小傾向に進む中、年間学習期間のおよそ7分の1をつぎ込んで実施する価値が、三ツ沢小学校には確実にあると私は思っています。本校では、運動会が単なる年中行事の一つなのではなく、目標をもって課題解決を図るにふさわしい大きな学習の場であるのです。

校内では大きな価値を捉えてはいるものの、参観された保護者や地域の皆様にとっては、会場の狭さや観覧の仕組み、プログラムの内容、教師による協議の判定など、ご満足いただけない点多々あったことと想像しております。教育活動を常に見直し、改善を図ることが学校の使命ですから、どうぞお気軽に率直なご意見をお寄せください。

#### 正門前での一時停止・乗降回避へのご協力、ありがとうございます

先月号でお願いいたしました、登下校時の正門前への駐停車ゼロへの取組に対し、それ以降の登校時における一時停止・乗降がほとんどなくなりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

一方、下校時にはまだ一時停止車両が散見されます。運動会があった10月17日には、三ツ沢上町交差点付近で乗用車が歩道に乗り上げる事故が、20日には、東京・三軒茶屋の国道にて、スマホを操作しながら運転を行った乗用車の追突事故により、追突された車両から荷下ろしをしていた女性が両足切断の重傷を負う事故がそれぞれ発生しています。いずれも本校正門前の状況に似た場所での事故です。

三ツ沢っ子が安心して登下校できるよう、引き続きご協力をお願いいたします。